

第2回 市民・交流部会 協議を踏まえた対処方針及び計画への反映 【第6編】

No.	意見	対応方針・施策への反映	編-章-節 等
1	「選ばれる都市に向けた上田の魅力発信」について、魅力発信だけで移住者数の目標値が達成できるわけではないので、具体的に移住者に選ばれるために、他市と比較して、どのような支援を実施していくのか、計画に盛り込んでほしい。	基本施策1及び2①のとおり、積極的なプロモーション活動に加えて、基本施策2②のとおり、官民連携による相談体制を充実し、子育て支援策も含め、仕事や住まいをはじめとした移住関連施策を展開してまいります。 具体的な移住者への支援策については、「主な事業」に記載するほか、総合計画に付随して策定する実施計画において、新規事業などの立案を検討してまいります。	6-2-1
2	移住支援金について、子育て加算額が30万円から100万円に拡充がされたものの、市全体の予算額が不足していると思われるので、予算確保をお願いしたい。 また、テレワーカーと比較して、市内企業への就業要件が厳しいと思われるので、要件の見直し、あるいは市の別の支援事業について検討いただきたい。	移住支援金の市の予算額は、令和5年度が約2,000万円で、令和6年度は約5,000万円に増額しています。 国の新たな地方創生の取組も注視しながら、市の予算増額や支給要件の見直し、新規事業のあり方については、実施計画策定や予算編成の中で検討してまいります。	6-2-1
3	上田市の魅力発信に当たり、市の他の政策と一緒に検討し、全体的な政策の中で、何を押し上げていくのかを明確にする必要があると考える。 また、市民のシビックプライドの醸成のためにも、移住者が増加することによる成果をデータで示すことも必要と考える。	移住検討者が、移住地の選択に当たり、何を重視するかは様々な視点があると考えますが、第三次総合計画での位置付けや今後予定するブランド戦略などにおいて、市としてのPRポイントを明確にしていまいりたいと考えております。 また、移住者が増加することによる効果についても、具体的なデータとして、市民に説明できるよう研究を進めてまいります。	6-2-1

4	Uターンを目指す「若者」や「女性」、「子育て世帯」に対して、それぞれ個別の補助や支援策（例えば引越し資金補助や補助金加算など）についての検討をお願いしたい。補助内容や支援策においても、他市町村との差別化は今後必要と考える。	国の新たな地方創生の取組も注視しながら、補助金などの市の支援策については、実施計画策定や予算編成の中で検討してまいります。	6-2-1
5	子どもアトリエの体験プログラムについて、参加人数を増やすための個別の KPI を設定してはどうか。	子どもアトリエの体験プログラムについては、実技を伴うことから、講師がきめ細やかに対応できる人数に限りがあり、単純に参加人数を増やすことを主眼に事業を進めておらず、参加人数を目標数値とはできないと考えています。事業を評価する指標としても、参加者の満足度等としています。 また、美術館事業については、総合計画を踏まえて「美術館運営方針」を定め、毎年「上田市美術館協議会」において、事業評価をいただいています。その結果を踏まえ、次年度計画に反映するというサイクルにより事業を進めています。 こうした状況から、総合計画において子どもアトリエの体験プログラムに関する個別の KPI を設定することは検討していません。	6-1-2
6	「スポーツに対しどのくらい指導者が確保できているか」というところは、もう少し KPI にした方がいいのではないかな。	指導者については、指導者の定義（プロアマ、資格の有無など）や対象者の範囲（子どもから高齢者まで）が広範囲であることから、指導者に関する個別の KPI を設定することは検討していません。 指導者育成、資質向上等の具体的な施策については、総合計画に基づき策定する個別計画において検討してまいります。	5-2-2